

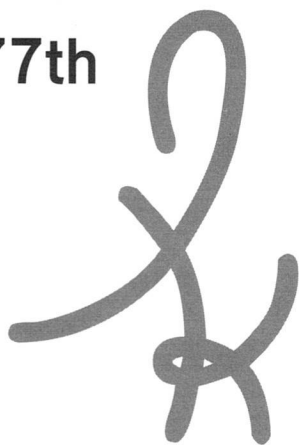
市川市制65周年記念文化祭
第277回市響

市川混声合唱団50周年・行徳混声合唱団20周年

合唱の集い

平11 10月3日(日) 2時開演
市川市文化会館大ホール
1999

277th



主催 市川市 市川交響楽団協会

マスター

開催ごあいさつ

本日は、私どもの市川混声合唱団50周年、行徳混声合唱団20周年記念コンサートに、ようこそおいで下さいました。本日は、精一杯心を込めて歌いますのでどうぞ終りまでご静聴下さい。両合唱団の誕生の由来を述べて、開催ごあいさつと致します。

市川混声合唱団を結成した頃は、日本は敗戦で混乱し、人々の心は乱れていました。健全な芸術の喜びを伝え、正常な生活を取り戻したいと、彫刻家の故藤野舜正先生（市川市および千葉県美術会の創設者）や、詩人の故古賀米吉先生（市川学園創立者）と協力して市川文化会を結成し、私は音楽部長として、健康なクラシック音楽の普及、啓蒙に努めました。音楽は歌声が基本ですので、弦楽器や他の楽器と共に、良い歌声を多くの市民に聴いてもらうために、芸大の声楽教授であった故長坂好子先生や、故四家文子先生、故伊藤武雄先生、二期会（オペラ）を創設した中山悌一先生をお招きして名演奏含む懇談会や観賞会を開催しました。また、合唱の喜びを広く伝えようと、昭和23年に女声合唱団、サーダニックス・コールを結成し、演奏会を開催しました。音楽大学を卒業した専門家10名ほどのメンバーの中には、その後、藤原歌劇団の名歌手として活躍された戸田政子さんや、上野学園音大の教授になられた清水末子先生（本日の野村陽子さんの御母堂）、ロシア歌曲の名歌手となられた外山亘さんがおられ、良い曲を演奏しましたが、練習が思うようにできず、2年ほどで解散したのは残念でした。当時、市川文化会コンサートの会場の生花で飾って下さったのが、現在、市川混声顧問の井関裕義君の御母堂です。井関君は当時レコードコンサートに尽力していた故大木正興氏や姫野健太郎氏（現団員姫野達郎君の長兄）と千葉中（現千葉高校）時代の同期生で、彼等の進言によって誕生したのが、市川混声合唱団（当時は市川文化会合唱団）です。初めの一年は小生宅で練習していましたが、その後、自然幼稚園を借りる事ができるようになりました。現在は、毎週木曜日、市川公民館で練習しています。

行徳混声合唱団は、行徳公民館が開館する折に、教育長より、合唱講座を引き受けて欲しいとの依頼があり、半年程勤めた後、その会員達が自主的に始めた合唱団です。現在も行徳公民館で毎週火曜日に練習しています。両団体共、向上心が強く、歌い上げた曲も多数に上っています。また、オーケストラと協演できることも大きな特色です。両団ともどなたでも入団できますのでどうぞおいで下さい。

最後になりましたが、これまでご支援、ご協力下さった皆様、また、演奏会にお出かけ下さった皆様に厚く御礼申し上げます。

平成11年10月3日

市川交響楽団協会理事長 村上正治

御 祝 辞

千葉県教育委員会
教育長 中村好成



本県の文化振興の第一線で常に御活躍してこられた市川混声合唱団の創立50周年並びに行徳混声合唱団の創立20周年を心からお祝いするとともに、その記念コンサートである「合唱の集い」が盛大に開催されますことをお喜び申し上げます。

市川交響楽団協会の主催によるコンサートは今回で277回を迎えられますが、回を追うごとに盛会となり、この間、音楽演奏を通じ、本県の芸術文化の振興に貢献されてこられました。これもひとえに、市川交響楽団協会の村上正治理事長をはじめ、構成団体の皆様方の長年にわたる御尽力の賜物と深く敬意を表します。

貴協会のこのような活発な演奏活動の積み重ねにより、現在、千葉県は全国でも屈指の音楽県となり、ことにアマチュアオーケストラや合唱の分野において、全国的にもその活動の中心としての役割を果たしております。このことは本県にとって大きな誇りであり、喜びとするところであります。

千葉県教育委員会におきましても、一人でも多くの県民の方々が優れた芸術文化に親しみ、心豊かなうおいのある生活を送れるよう、芸術文化活動の成果を発表する場の拡充に努めているところでございます。

本コンサートに参加される皆様方には、日ごろ研鑽した練習の成果を発揮されるとともに、今後とも音楽活動を通じた地域文化の振興により一層の御協力をお願い申し上げます。

終わりに、本コンサートの御成功と、市川交響楽団協会のますますの御発展並びに会員の皆様方の御健勝と御活躍を祈念いたしましてお祝いの言葉といたします。

プログラム

行徳混声合唱団

指揮 村上 正治
ピアノ 鈴木 珠美

唱歌メドレー「ふるさとの四季」

源田俊一郎編曲

- ・ 故郷
 - ・ 春の小川
 - ・ 鯉のぼり
 - ・ 茶摘み
 - ・ 夏は来ぬ
 - ・ われは海の子
 - ・ 村祭
 - ・ 紅葉
 - ・ 冬景色
 - ・ 雪
 - ・ 故郷

コール・シュティムメ

指揮 橋本 久喜
ピアノ 畑野かんな

「愛の歌」作品52より

J. ブラームス作曲

- ・ No.2 巖の上を水が流れる (Am Gesteine rauscht die Flut)
- ・ No.4 夕べの美しいくれないのように (Wie des Abends schöne Röthe)
- ・ No.6 一羽の小さな、かわいい小鳥が (Ein kleiner, hübscher Vogel)
- ・ No.8 お前の瞳がそんなにやさしく (Wenn so lind dein Auge mir)
- ・ No.9 ドナウの岸辺に (Am Donaustrande)
- ・ No.10 おお、なんとおだやかに (O wie sanft)
- ・ No.11 いいや、ぼくは世間の奴らと (Nein, es ist nicht auszukommen)
- ・ No.12 錠前屋よ、起きろ (Schlosser auf)
- ・ No.15 夜鶯があんなに美しく歌っている (Nachtigall, sie singt so schön)
- ・ No.16 恋は真つ暗な、深い穴だ (Ein dunkeler Schacht ist Liebe)

市川混声合唱団

指揮 村上 正治
ピアノ 鈴木 珠美

混声合唱組曲

「心の四季」

吉野 弘 作詞 高田三郎 作曲

1. 風が
2. みずすまし
3. 流れ
4. 山が
5. 愛そして風
6. 雪の日に
7. 真昼の星

————— 休 憩 —————

合同演奏

ミサ曲ハ長調 K. 317 『戴冠ミサ』

W. A. モーツァルト作曲

- ・キリエ
- ・グローリア
- ・クレド
- ・サンクトゥス
- ・ベネディクトゥス
- ・アニュスデイ

指揮 村上 正治
ソプラノ 西野 薫
アルト 野村 陽子
テノール 吉田 伸昭
バス 藪西 正道
オルガン 深井李々子
合唱 市川混声合唱団
行徳混声合唱団
コールシュティムメ
津田沼混声合唱団有志
管弦楽 市川交響楽団

プロフィール



指揮 むら かみ まさ はる 村上正治

君津郡袖ヶ浦町(現・袖ヶ浦市)横田出身の牧師である村上 治氏の長男として、1914年に新潟県村上町で誕生。1935年国立音楽大学作曲部に入学、卒業後は市川小を始め中央国民学校や市川高女、市川一中、市川二中に勤めながら市川文化会や市川混声、市響、市響吹奏楽、ジュニアオケ、行徳混声を結成して指導に当る。県音楽教育研究会や全千葉合唱連盟、県吹奏楽連盟、千葉交響楽団協会、県及び市川市の両芸術文化団体協議会、日本アマチュアオーケストラ連盟、全日本文化団体連合会等をも組織し文化振興に貢献している。市川市教育委員会、千葉県教育委員会、千葉県知事、文化庁長官より各文化功労賞を受賞し、87年秋、勲四等瑞宝賞を受賞。92年4月には第1号の市川市民栄誉賞を受賞した。

全国文化団体連合会会長、(法)日本アマチュアオーケストラ連盟副会長。



指揮 はし もと ひさ よし 橋本久喜

1978年国立音楽大学ピアノ科卒業。1982年5月ウィーン国立音楽大学指揮科を首席で卒業。指揮法を山田一雄、カール・エストライヒャー、ゲンナジー・ロジェストヴェンスキー各氏に師事。1982年ウィーン楽友協会におけるデビュー・コンサートは各新聞誌上で、卓越したバトンテクニックと音楽センスを絶賛された。その後ウィーン国立歌劇場でアシスタント・コレペティートルを勤める。また、カラヤン氏によるオペラ公演にプライベート・コレペティートルとして参加。1983年プザンソン国際指揮者コンクール入賞。1985年ウィーン室内管弦楽団定期演奏会では正統的な解釈と洗練された演奏で高い評価を獲得。1986年より活動の拠点を国内に定め、東京都響、東響、東フィル、日フィル、新星日響、東京シティーフィル、神奈川フィル、群響、京響、関西フィル、広響、九響、等の主要なオーケストラに客演を重ね、多彩なレパートリーと安定感のある演奏で注目を集めている。また、NHK番組、映画等の録音も多い。1991/92年は外来公演歌劇「ポーギーとベス」パリ・オペラ座バレエ等の代理指揮者を勤める。1994年「国民文化祭三重」の総合指揮者。1995年「世界ユニヴァシアード福岡大会」ではテーマ音楽を指揮。「日伯修好100周年記念“夕鶴”ブラジル公演」の副指揮者を勤める。1998年「長野オリンピック文化・芸術祭」並びに「長野パラリンピック文化プログラム」参加「合唱組曲 千曲川讃歌」を初演指揮。平成2年度滋賀県文化奨励賞受賞、日本オペラ振興会・藤原歌劇団指揮者/講師、日本指揮者協会幹事。



にし の かおる
西野 薫 (ソプラノ)

東京芸術大学卒業。同大学院修士課程終了。読売新人演奏会出演。イタリアに留学。帰国後、日本モーツァルト音楽コンクール優勝。日本声楽コンクール第2位、田中路子賞受賞。奏楽堂日本歌曲コンクール第2位。

1995年二期会「ドン・ジョヴァンニ」にツェルニーナ役として出演。引き続き、二期会「コシ・ファン・トゥッテ」のデスピーナ役、「シンデレラ」のクロリンダ役、新奏楽堂オープニング公演「魔笛」のパパゲーナ、新国立劇場（昨年11月）の「ヘンゼルとグレーテル」のグレーテル等、リリコレッジェーロの主要な役を数多く演じている。今秋の二期会公演でも「コシ・ファン・トゥッテ」のデスピーナ役が予定されている。ドイツ、ボン迎賓館に於ける「オペラ。アリアの夕べ」に出演。スイス、チューリッヒでは、「ヴェルディのアリアの夕べ」でオーケストラと協演し、「リゴレット」や、「椿姫」のアリアを歌い、現地の新聞にて好評を博した。さらに、ミラノ（イタリア）では、演奏会形式「リゴレット」にジルダ役に急遽代役として、出演、5回の公演を無事に勤め注目された。コンサートのソリストとしても、「第九」「メサイア」フォーレの「レクイエム」、マーラー「交響曲第4番」等を、オーケストラと協演している。

二期会会員。日本声楽家協会演奏員、日本演奏家連盟会員。



の むら よう こ
野村 陽子 (アルト)

東京芸術大学卒業。1975年ベルリン国立音楽大学を首席で卒業。畑仲更予、平原寿恵子、田中路子、イルムガルト・ハルトマン・ドレスラーの各氏に師事。75年より88年までベルリン・ドイツ・オペラ劇場の専属歌手として、ヴェルディ、プッチーニ、ワーグナー、モーツァルト等20演目以上のオペラに出演する一方、ヨーロッパ各地やアメリカの歌劇場に客演。また、オラトリオの分野でもバッハ、モーツァルト、ストラヴィンスキー、バルトークなどベルリン・フィルハーモニー、ベルリン放送管弦楽団と共演する。ベルリン音楽祭、シュベッツインゲン音楽祭出演。

83年10月イイノホールにて初のリサイタルを行い好評を得る。同年12月二期会の「ヘンゼルとグレーテル」のヘンゼル役で日本オペラ界にデビュー。翌年藤原歌劇団にて「バタフライ」のスズキを歌い絶賛を博す。87年ベルリン・ドイツ・オペラ日本公演で「ニーベルングの指環」より「ワルキューレ」のジークルーネを歌う。88年9月帰国。89年東京グローブ座にて「ハムレット」の王妃役で好評を博し、90年神戸オリエンタル劇場にて「ハムレット」の再演。また井上道義指揮京都市交響楽団にて「復活」を歌い好評を得る。91年10月には帰国後初のリサイタルを津田ホールにて行い大成功をおさめた。

89年度、91年度日本音楽コンクール審査員。現在東京音楽大学専任講師。二期会会員。



よし た のぶ あき
吉田 伸明 (テノール)

東京芸術大学卒業、同大学院修士課程修了。ザルツブルク・モーツァルトウム音楽大学に留学。ザルツブルク・フランツィスカ教会専属歌手として「1990年ザルツブルク国際モーツァルト週間」にてソリストをつとめるなど、主に宗教曲の分野で活躍。

帰国後は、二期会「ポッペアの戴冠」「フィデリオ」「学生王子」「ジャンニ・スキッキ」「魔笛」「カルメン」の他、東京オペラプロデュース「ロミオとジュリエット」、東急BUNKAMURA「マダム・バタフライ」、東京室内歌劇場「劇場支配人」の他、「ボエーム」、台湾にて「トゥーランドット」等のオペラに出演。新国立劇場オープニング公演「建」、東京文化会館リニューアル公演「脳死を越えて」にも出演し、好評を博した。また、「メサイア」、モーツァルトの「レクイエム」・「戴冠ミサ」、「天地創造」他の宗教曲や、「第九」のソリストとして多数出演。また、テレビ、ラジオのクラシック番組出演など、その活動は、多岐にわたっている。

1990年、第6回日仏声楽コンクール第2位（1位なし）、92年第4回日本声楽コンクール入選、田中路子賞受賞。日本演奏家連盟オーディション合格。三林輝雄、R.クノール、P.シルハウスキーの各氏に師事。二期会会員。日本フーゴー・ヴォルフ協会同人。東京芸術大学、上野学園大学講師。



やぶ にし まさ みち
藪西正道 (バリトン)

東京芸術大学卒業、同大学院修士課程修了。イタリアに留学。

高橋大海、高折統、中山悌一、L・グアリーニ、プロッティエー各氏に師事。

イタリア・テルニ国際声楽コンクール優勝。オペラ「トスカ」のスカルピアで地元の新聞でも絶賛された。また、ブタペスト（ハンガリー）のspringフェスティバルコンサートではルチアのエンリーコのアリアを歌い、ラジオでも放送された。フィレンツェ歌劇場新人オーディション第2位。

国内に於いても、オペラ「ドン・ジョヴァンニ」のタイトルロールをはじめ、「椿姫」のジェルモン、「蝶々夫人」のシャープレス、「夕鶴」の運ず、1997年二期会公演の「フィガロの結婚」のフィガロ、1998年日生劇場での「セヴィリヤの理髪師」のフィガロ、他、多数のオペラ公演で好評を博す。

オラトリオ等の分野でも「第九」「メサイア」フォーレの「レクイエム」「天地創造」モーツァルトの「レクイエム」「戴冠ミサ」他、数多く出演している。

二期会会員、日本演奏家連盟会員、日本声楽家協会演奏員、東京芸術大学非常勤講師、武蔵野音楽大学講師。



ふか い りり こ
深井李々子 (オルガン)

国立音楽大学オルガン科卒業。吉田實、廣野嗣雄の両氏に師事。1973年より1977年までフランスへ留学。ニース音楽院にて、ルネ・サオルジャン氏に師事し、プルミエ・プリを得て卒業。1976年、ニース市のグランプリを受賞。現在、東京ルーテルセンター教会、玉川大学オルガニスト、東洋英和女学院短期大学非常勤講師を勤めるとともに、各地でのリサイタルやNHK・FM放送等で演奏活動が続いている。日本オルガニスト協会会員、日本オルガン研究会会員。オルガン五人組リーダー。



すず き あけ み
鈴木珠美 (ピアノ)

国立音楽大学器楽学科ピアノ専攻卒業。

ピアノを故クロイツァー豊子、篠井寧子、村松庸子の各氏に師事。斎藤指揮法を高階正光氏に師事。

第20回家永音楽事務所ピアノ・オーディション合格。同事務所主催のサントリー小ホール、津田ホールに隔年で出演し、スクリャーピン、ラフマニノフ、リストのピアノ曲を披露。

市川市文化会館新人演奏会出身者として、市川交響楽団とモーツァルト「ピアノ協奏曲第21番」を協演。また、市川オペラ振興会公演、プッチーニ「つばめ」では、ピアノソロを担当。最近では、千葉県高音研総会・研究協議会でのコンサートにおいて、R.フリーダー氏（ウィーンフィル首席チェリスト）の伴奏者を務めるなど、広い分野で活躍している。

村上正治先生のご指導の下、市川混声合唱団、行徳混声合唱団にの両団とは、学生の頃から、はや十年來のお付き合いとなり、今日に至る。

曲目紹介

「ふるさとの四季」

兔追いしかの山、だれもが良く知っているこの曲を中心に、日本の四季おりおりの情景を歌ったうたを、源田俊一郎編曲のメドレーでお届けします。都会の現代の生活の中ではもう見ることのできない自然やさまざまな季節の行事、うしなわれつつある人の心の温もりを、ただ懐かしむだけでなく、あわただしい日々の暮らしの中で心のよりどころとしている方は、今日でも沢山いらっしやることでしょう。いつまでも日本の心を大切にうたっていきたいと思います。

「愛の歌」 作品52より

ドイツの作曲家、ヨハネス・ブラームスは、特に名高いシンフォニーのほかにも、器楽曲（ヴァイオリンソナタ等）や、協奏曲等、多数の優れた作品を残しています。声楽曲でも、最も有名な「ドイツレクイエム」をはじめ、「アルトラプソディー」、「運命の歌」市響250回記念演奏会で演奏した「挽歌（ネニエ）」など、深い哀感漂う名作を作曲しています。本日お届けする愛の歌は、それらの曲とは少し異なるカラーを持った若々しく美しい合唱曲集です。合唱の盛んなドイツらしいところを感じて頂ければ幸いです。

「心の四季」

合唱組曲の名作として広く歌われているこの作品を、市川混声合唱団で取り上げるのは、平成10年に続き、2年ぶりになります。幾度歌っても、その歌詞の深い味わい、曲想の美しさには、飽きることはありません。人の心を縦糸に、自然と季節のうつりかわりを横糸に織りなす布が風にそよいでいるように、さわやかに歌いあげたい組曲です。

「戴冠ミサ」

若き天才作曲家、モーツァルトが23歳の時の作品であるこの曲は、宗教曲のしきたりを守りながらも、躍動感にあふれた明るく華やかな作品です。この曲は、プラハでレオポルド2世の戴冠式において演奏されたところから、「戴冠ミサ」の名前が付けられたといわれています。

この曲は、市響30周年記念演奏会で、行徳混声合唱団が結成後初めて合同演奏に参加したときにも取り上げられた、記念すべき曲でもあります。20年の活動の成果はどう現れるのでしょうか。

本日の出演者

市川混声合唱団

ソプラノ

石黒 淳子	岩佐 敦子	榎本 邦子	大坂 正美	蚊野 侑子	亀尾 真理	轡田祐見子
桑村 和子	菅田 祐美	瀬川 洋子	多志賀幸子	塚本 恵子	角田美智子	中野 かよ
野田紀美絵	前原 敏子	山本 桂子				

アルト

漆原 由美	大塚美千代	大林 千鶴	小高 松子	久原智瑛子	小松崎幸子	白取 博子
高橋 圓	田辺 育	富山 清子	内藤富士子	服部真知子	松丸美恵子	山口 典子
吉澤 濱子	渡邊左江子					

テノール

井関 裕義	遠藤 實	金田 輝夫	桑原 磐男	篠田 要衛		
-------	------	-------	-------	-------	--	--

バス

榎本 貞次	大辻 康允	小松崎 厚	姫野 達郎	古山 雄一	鷲尾 純治	
-------	-------	-------	-------	-------	-------	--

行徳混声合唱団

ソプラノ

阿部都志子	川又 京子	神林 佑子	小島こずえ	鈴木 紫磨	辻本 富子	仁平 紀子
箱根 利恵	橋本 晴美	林 喜久子	平川 清子	藤森 典子	松本 孝子	村山 典子

アルト

安藤 照子	石井 淑子	伊藤 和子	稲葉 勝代	金島 優子	斎藤 恵子	佐藤 和子
田中 和子	永野 幸子	西 美都子	野瀬富美子	藤井 礼子	見谷 静枝	

テノール

大友 亀男	大野 泰人	加藤 芳明				
-------	-------	-------	--	--	--	--

ベース

石井 省二	神田 春彦	佐藤 正義	高田 峰幸	長谷川康啓	山村 晟	
-------	-------	-------	-------	-------	------	--

コールシュティンメ

ソプラノ

赤松登美子	小林 千絵	関 光子	野口留美子	花塚 由美	藤田 弘子	山本由紀子
横川 忍						

アルト

阿部みどり	飯島 佳子	及川美智代	宮原真由美	柳井 和美	山口 淳子	
-------	-------	-------	-------	-------	-------	--

津田沼混声合唱団

テノール

阿保 美実	菊田 信雄	鬼頭 昭二	谷田 崇嘉	友野 信善	長島 昇	東谷 義敬
三田村 元						

バス

内田 浩昭	佐久間泰宏	松戸 照彦	渡辺 洸一			
-------	-------	-------	-------	--	--	--

市川交響楽団

第一ヴァイオリン

上原 剛介 ○立田 祥子 永田 匡 二宮 伸雄 福原 亜希 松延 裕子 松山 和子
横田富美子 吉岡 一郎

第二ヴァイオリン

石本 恵里 笠松 秀臣 亀井 玲子 島原 千晶 根守 弘和 久田しげ子 村上 葉子
村田 康代 横田佐貴絵

チェロ

池田 寛之 瀬川 清 根岸 朋子 野中 能久 日澤 優 福原 耕二

コントラバス

上村 啓介 菊池 克彦 鈴木 重則 向山 則子

オーボエ

二村 直子 吉田 史朗

ファゴット

伊吹 直子 古屋 文弘

ホルン

近藤 利昭 林田 朋子

トランペット

安藤 宣明 一柁 泰一

トロンボーン

市塚 徹 古屋 義和 薮崎 裕至

ティンパニ

和田 英恵

○コンサートマスター



98.10.4 市川市文化祭50周年記念 合唱の集い

市川混声合唱団創立50周年に寄せて

市川混声 井関 裕義

昭和24年4月、敗戦の傷跡もまだ癒えぬ時代に、千葉県市川市の村上先生のお宅に、ソプラノ・アルト・テノール各1名、バス2名の5名が集まって誕生した合唱団が、この4月に50周年を迎えたことは、創立以来のメンバーとして、誠に感無量であります。

合唱団ができたきっかけとして、(私事にわたり恐縮ですが) 私が、旧制高等学校時代に覚えた合唱の楽しさが忘れられず、当時新進の音楽評論家として活動し始めていた、親友の故大木正興君に相談をもちかけたことがあります。「君の希望にぴったりの先生を紹介してあげよう。」と言って彼に連れていかれたのが、村上先生のお宅だったのです。私の希望と言うのは、かつて歌っていた合唱団のように、ヘンデルやモーツァルトをはじめとする宗教曲主体の合唱団であったことを指しております。

村上先生は、当時、戦後の日本を立て直すためには、文化国家としての再生が必要であり、クラシック音楽の普及こそ自分が与えられた使命であると信じて、市川文化会を設立して活動を開始していた頃でした。「このような活動のお手伝いには沢山の人間がいたほうが便利ですよ。」などともちかけて、合唱団を指導していただくことになりました。いまでいえばボランティアのはしりと言った感じで、練習以外に様々なお手伝いするのが重要な活動でした。演奏会と言っても、当時は立派な会場等は皆無で、小学校の講堂などを借りて行っていました。ピアノを運び込むのが、いつも大仕事でした。かなり離れたところへも大八車に乗せては運んだものですが、疲れ切って演奏が始まった途端に居眠りをして笑われたこともありました。そのような中で、ようやく5人でスタートした合唱団は、市川文化会合唱団と名付けられ、その年の秋には15名足らずながら関東合唱団連盟の合唱祭に出演、日比谷公会堂の壇上で一列で歌ったことが、今でも思い出されます。この時には、オペラ「カバレリア・ルスティカーナ」の『オレンジは香り』を歌い、作曲家の故清水修先生に「なかなか良かったぞ。これからも頑張りたまえ。」とはげまされたのには大変感激いたしました。



昭和56年7月 市響30周年記念演奏



昭和62年7月 オペラ魔笛公演

昭和26年に市川文化会が発展して、市川交響楽団協会に変わったことに伴って合唱団の名前も市川混声合唱団と変わり、様々な活動をして参りました。昭和54年には、姉妹団体の行徳混声合唱団が結成され、常に良いパートナーとして協力体制が生まれ、少ない男声は特に助け合いながら歌ってこられたのはとても幸いなことで、今日その20周年を共に迎えられるのも非常に喜ばしいことです。

私自身は、仕事に追われ、転勤に継ぐ転勤でやむなく市川を離れること約20年、コーラスからも遠ざかっておりましたが、20年振りに舞い戻った私に、計らずも昔の仲間達から誘いがあったのには感激いたしました。懐かしい思いで市川混声カムバックしたのが、昨日のこのようですが、また、あっという間に約20年の歳月が過ぎてしまいました。振り返ってこの50年、間にブランクはありますが、市川混声合唱団とともに歩んできた道には、何の悔いも無く。唯ひたすらに歌って来られたことに感謝するばかりです。顧りみれば数々の名曲を歌ってきました。中でもオペラ「魔笛」の舞台に団員として出演したことや、フィンランドのオーケストラと協演したことは、特に忘れがたい思い出です。

思えば、この50年ほとんど休むこと無く指導にあたってこられた村上先生のご努力は如何ばかりか、ただ頭が下がるばかりで言葉もありません。村上先生、いつまでもお元気で、そして、市川混声合唱団が、いつまでもその美しいハーモニーを響かせていくよう祈って、50周年に寄せる言葉とさせていただきます。

最後になりましたが、本日の記念演奏会に華をそえて下さった諸先生方、津田沼混声合唱団有志の皆さん、コールシュティムメの皆さんに厚く御礼申し上げます。



練習風景 昭和46年5月

行徳混声合唱団20周年、そして未来へ

遠い日の「行混」を思うとき、懐かしい想いでいっぱいになります。当時は、子育て中の団員が多く、団全体がはつらつと活気に満ちていました。そのころ歌われていたのは、「蔵王」、「土の歌」などで、純粋に合唱の喜びを求めています。

時を重ね、ベートーヴェンの交響曲「第九」などの大曲、オペラ「椿姫」、「魔笛」からの合唱曲、モーツァルトの「レクイエム」といった、古典音楽の名曲に挑むようになり、私たちの音楽に寄せる思いや感動が深まってきました。同時に、村上先生の希求される、「音楽の流れの切れ目（解決）を抑制して音楽を^{まる}円にする。」という抜量がなかなか得られず、悩む日々もありました。

20年の道程は平坦ではありませんでしたが、団員同士が心を合わせて、「行混の灯」をともし続けてきたことに喜びを感じます。ディズニーランドのステージで歌ったり、毎年のハイキングや合宿練習の思い出も、数々の演奏会の思い出とならんで印象深いものです。これからも、合唱を愛する心を持ち、行混のハーモニーを響かせていきたいとおもいます。そして、形ではなく、内的表現こそが重要であるという、先生の指導の神髄に一步ずつ近付いていきたいと願っています。

先生、20年間、本当にありがとうございました。これからもお元気で、私たちに音楽の喜びを教え続けて下さい。

今日は、記念の舞台でOBの方々と共にうつくしい「ふるさとの四季」を、心を込めて歌いたいと思います。



合同合宿にて

思い出のアルバム



昭和24年8月
大須賀 力氏
藤野舜正氏
日展評議員就任祝賀会



昭和24年
国府台高校にて



昭和29年8月
ハイキング

昭和35年2月14日
新宿小



昭和39年11月
第九演奏会

昭和40年頃



100回

ICHIKYO 市響

市川混声合唱団25周年

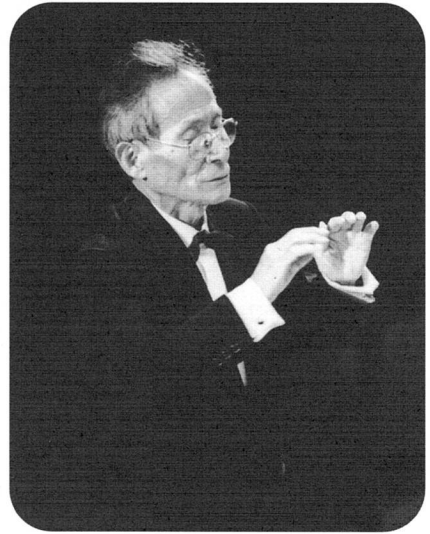
フォーレ「レクイエム」全曲
ソプラノ 外山眞子 ヴォコーラ 本沢尚道 合唱指揮 野尻俊雄
ホロフ「ダッタン人の踊りと合唱」
リスト「前奏曲」指揮 村上正治 金子建彦 坂邊郎
市川交響楽団 市川交響吹奏楽団録

入場無料

5月26日 18時開演
市川市民会館

市川市教育委員会 千葉県音楽振興協議会 千葉交響楽団協会 共催 千葉県教委後援

世界のパン  ヤマザキ



指揮者 村上正治



S.49.12 合唱と管弦楽の夕べ

市川市文化祭
'89

206回市響

合唱の集い

市川混声40周年 行徳混声10周年記念コンサート
賛助出演 市川交響楽団

——プログラム——

行徳混声合唱団 ビア/鈴木 珠美
五線譜 今さら多岐は、村上正治編 地
六半音二重の地、高橋隆三クワッ
八重野中編 いにしえ流泉の樹
中山朝平 野鳥あふめて、山田真樹 山
三重奏 秋の静寂

市川混声合唱団 ビア/小宮 都子
ウエスター 野ばら、アルカゲルド、アタ、マリカ
佐藤真作品より「投げよリンゴ」、「原香」
鳥居とし、大庭謙吉

合同演奏 村上正治 弾リ、
小宮 都子
男声合唱 モーツァルト 協賛合唱団
混声合唱 今さら多岐、電音の歌、
ワロ 木村雅哉、島津英

モーツァルト作品
ソナタ、ソリア
アリア、カバレー、コロス
ミサ、プレジス
フルガン、西沢野子

全員合唱
原典詞、モーツァルト各種

10月29日(日)2時開演
市川市文化会館大ホール

入場無料

市川市教育委員会 千葉興音楽振興協議会 市川交響楽団協会共催 京成電鉄後援

市川市文化祭
国民文化祭ちば91協賛

合唱の集い

モーツァルト
レクイエム

市川混声・行徳混声合唱団演奏 その他

客演 ソプラノ 羽田 裕美 子
 アルト 野村 陽子 子
 テノール 佐伯 雅己 子
 バリトン 田村 伯島 上
 指 種 鈴 木
 ピアノ

10月27日(日)14:00開演
市川市文化会館大ホール

入場無料

市川市教育委員会 市川交響楽団協会主催



昭和60年11月4日 市響の第九

千葉県生誕120周年記念 平成5年度市川市文化祭参加
第235回 市響
合唱の集い

ウィルヘルム3世献呈譜にもとづく初演

BEETHOVEN SYMPHONY No.9 in d-minor Op.125

ベートーヴェン／交響曲第九番二短調『合唱付』

ソプラノ／羽田裕美子 アルト／野村陽子
テノール／佐伯雅巳 バリトン／田島好一

合唱／市川交響楽団協会合唱団
管弦楽／市川交響楽団 指揮／金子建志

平成5年10月3日(日) 午後1時30分開場 午後2時開演

1924年5月7日ウィーンで初演された第9交響曲は、その後作曲者自身による修正がなされ、1826年末にブロンヌ軍楽ワグネル・リヒツェル・ベルグ公館に転写されています。今回はこの原草稿と自筆譜の比較研究をおこなった金子建志氏のご協力により原草稿にもとづいた楽譜を使用して演奏します。

市川市文化会館大ホール《入場無料》
入場券は市川文化会館ほか市内文化施設にあります。お車でのご来場はできませんのでご注意ください。
お問い合わせ 0473-76-0433 中野 0473-95-9502 村山
主催／市川市教育委員会 市川交響楽団協会 後援／千葉県音楽振興協議会

市川市文化祭 第256回市響

合唱の集い

J.S.Bach BWV 227

Jesus, meine Freude

平成8年10月6日(日) 2時開演
市川市文化会館大ホール 入場無料

指揮：村上正治 ピアノ：鈴木珠美
市川混声合唱団 行徳混声合唱団
コール・シュティムメ(指揮：橋本久喜)
福栄中学校合唱部(指揮：山川麻子)
賛助出演：市川交響楽団

曲目：バッハ作曲「イエスよ、わが喜び」
村上正治作曲「光」
多田武彦作曲「富士山」
高田三郎作曲「心の四季」 他

お車でのご来場は出来ません

主催 市川市教育委員会 市川交響楽団協会
問合せ 0473-76-0433 (中野)



250回記念写真

心にのこる演奏会

市川混声、行徳混声両合唱団の歴史の中で、はじめて外国のオーケストラと協演した北欧フィンランドのクオピオ市立管弦楽団を迎えての演奏会は、沢山の思い出を残してくれました。オーケストラのメンバー、合唱団員の感想、当日の聴衆の方々のアンケート、新聞の記事より、

- ・演奏会4日前の水曜日に来日、指揮者、ソリスト、団員、事務局員、そして同伴の家族を含め、約60名。

成田空港での第一声は、「日本は夏か?」。半袖の団員も多数いて湿度と気温の高さにびっくりした様子でした。

日本に来たのは、初めての人ほとんどの方でした。

- ・演奏会2日前の金曜日に会場の文化会館へ。東京のホテルからラッシュアワーの総武線快速に乗って市川、そして本八幡へ、「なんでこんなに人間がいるんだ!」

1平方キロメートルに1.5人という人口密度の国から来た彼等にとって、日本の通勤電車は、クレイジーそのものという印象だったようです。

《アンケートより》

- ・フィンランド、アッツォ・アルミラ氏の指揮は迫力と切れがあり、素晴らしい演奏だったと思います。フィンランドのヘルシンキにいったときの情景が思い出されました。
- ・クオピオという都市の名前を初めて知りました。遠い白夜の国からようこそ、素晴らしい演奏をありがとうございました。



指揮者 アッツォ・アルミラ





クオピオ市長夫妻と共に

《新聞記事より》

- ・シベリウス作曲のフィンランディア、この作品はあまりにも有名だが、何度聴いても飽きることのない傑作。オーケストレーションも最高だった。
- ・今までに聴いた第九の中で最高のできばえではないかと思うほど快調で、フィンランド人の音楽の質の高さには、敬服させられた。

《合唱団員より》

- ・オーケストラとの練習が前日、本番当日しかなかったので少し心配だったが、指揮者のアルミラ氏のエネルギーに圧倒された。特にフィンランディアでは、軽快なテンポで、明るい中でも力強いオーケストレーションが合唱のよさを引出してくれた。
- ・言葉がわからないので、不安な気持ちがあったが、前日の練習でオーケストラの人と、目があったらニコリしてくれたので、とっとうれしかった。
- ・オリンピックでもフィンランドの選手が出るとつい応援してしまうようになった。
- ・オーケストラの演奏が素晴らしかった。クオピオという都市に市立のオーケストラ（楽団員、事務局のメンバーは公務員）があるというのは、やはり、文化の厚みを感じさせられる。
- ・いつかは、シベリウスの故郷フィンランドにいつか行ってみたい。もちろん、クオピオにも。

市川、成田、松戸、武蔵野での公演を無事に終えて、フィンランドに帰国するメンバーは、「飛行機から降りたら、もうオーバーを着なくては」と、沢山のおみやげをかかえ、笑顔で、成田空港から飛立っていきました。クオピオで、『日本への演奏旅行を思いだす夕べ』というコンサートが開かれたそうです。

- ・合唱付きフィンランディアが良かった。
- ・とてもきれいで、感動しました。迫力がありました。
- ・約100名の合唱団とオーケストラが、大変良く調和していた。
- ・交響楽団のレベルの高さを感じました。特にフィンランディアは心に響き、北欧の自然の気高さを想いながら聴きました。指揮者、オーケストラ、合唱のハーモニーも大変良く印象深くございました。
- ・シベリウスの2曲は、お国柄がにじみでた雄大で荘厳な演奏に心打たれました。
- ・メサイアは、合唱とオーケストラが一体で楽しく、正に国際交流に適したプログラムと思います。

市川市文化祭 第263回市響

国際音楽の日^{記念}

祝 建国80周年フィンランド

クオピオ市立管弦楽団協演

合唱の集い

シベリウス第7交響曲
フィンランディア
メサイヤ名作5曲
ベートーヴェン第9全曲

市川混声 行徳混声 コルムティン
市川市民合唱 津田沼混声有志
ソプラノ 國部千代子
アルト 野村 陽子
テナー ヨルイ シルヴラスティ
バス オイルカ フレバウイネン
指揮 三原 明人 アソノ アルミラ

3月16日 三原文化振興基金助成事業

10月5日(日) 午後2時

市川市文化会館大ホール

入場無料

主催 市川市教育委員会 市川交響楽団協会 協賛 日本芸術文化振興会 三井海上文化財団
後援 文化庁 千葉県教育委員会 市川市文化会館 千葉県文化振興財団 千葉交響楽団協会